

箕輪町森林ビジョン（本編）

森林は長い時間をかけて育ちます。10年、50年、100年といった中・長期的な視点で管理を考えることが大切です。
また、森林は木材生産だけではなく、防災・減災から水源かん養、エネルギー利用、キノコや山菜の楽しみまで、あらゆることと繋がっており、我々は森林との関係を断つことはできません。つまりこれから先も、そこにずっとあり続ける森林（山）と、めまぐるしく変化する私たちの社会とがどんな関係であつたら良いかについて、長く考え続けていく必要があるのです。
箕輪町森林ビジョンは、町民が望む森の姿や森との関わり方を明文化し、町民全体で共有するものです。
箕輪町森林ビジョンをもとにしながら、町内の森林について、みんなで考えていきましょう。

《 箕輪町森林ビジョン3つの柱 ～私たちが森に期待すること～ 》

箕輪町の面積の63.8%は、森です。森は美しい景観をつくり、様々な恵みを私たちにもたらす一方で、時には災害などの恐ろしい一面を見せます。そんな森と付き合っていく上で、私たち箕輪町民が森に期待することを言葉にまとめると、次のようになります。これが、箕輪町森林ビジョンの3つの柱です。

み 災害が少なく、安全・安心であること

- ・災害に強い森林づくりが行われ、土砂災害が起こりにくい
- ・防災・減災を最優先に考えながら、森の利活用が行われている
- ・松くい虫被害対策が講じられ、松枯れによる倒木や落枝が町民生活に影響を与えない
- ・奥山では多種多様な木々が育ち、人里に近いエリアでは藪の刈払いや誘引物の管理が徹底され、人とツキノワグマなどの野生動物とが棲み分けて暮らしている



令和3年8月豪雨の被害状況



沢に倒れこんだ木々



松枯れの被害状況



錯誤捕獲されたツキノワグマ

1

の 箕輪町の暮らしを彩り、支え、みんなが通いたくなる森であること

- ・先人たちが植え育てた人工林を含む、森の景観そのものが、箕輪町の誇りである
- ・人工林のうち、持続的な木材生産をしない森は、自然で多様な森へと徐々に移り変わっていく
- ・ウォーキングや山菜採り、キャンプなど、様々な楽しみ方があり、みんなが通いたくなる、望めば関われる
- ・自然そのものや、そこに関わる人たち同士の触れ合いを通して、大人も子どもも、気づきや学びを得られる
- ・豊かな水を育み、渇水や洪水を防ぐ森として、町の暮らしを支えている



箕輪ダムと周囲の森林



森でキャンプを楽しむ



みどりの少年団の活動風景



森林でのイベント

わ 資源を育み、もたらすこと

- ・住宅や家具、薪や炭に使う木材を将来にわたって持続的に育み、産出するため、伐って植えて育てる循環が成り立っている
- ・今すぐ伐って使うには採算が合わない人工林であっても、将来の木材資源になり得ると考える場所は、災害リスクを取り除いて保続管理されている
- ・町の森林を守り育てる人々が、その技術を研鑽し、継承する場となる



県産材を使用した沢保育園



ペレットストーブ



林業事業者の作業風景
(提供：上伊那森林組合伊北支所)



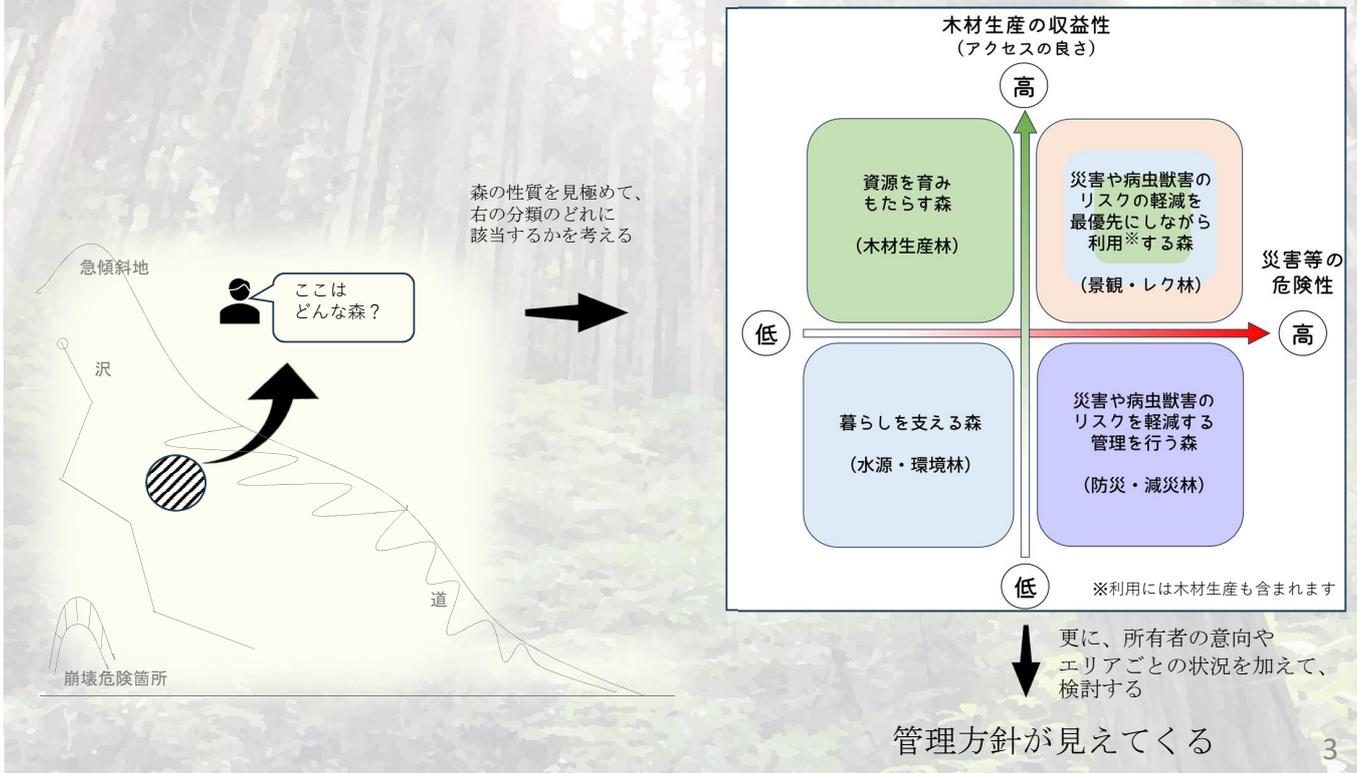
伐採跡地に植栽された
カラマツの苗木

2

《 ビジョン達成に向けて ～森の性質を見極め、分類する～ 》

ある森の利用や管理を検討するとき、私たちはまず、その森がどんな森を見極めます。「森」と一口に言っても一様ではなく、その場所の標高や地形、生えている木の種類や樹齢、林業に使える道の有無などの性質によって、それぞれ期待できることが変わってくるからです。森の性質は、町や県が公開する情報等から把握します。

「災害の危険性」と「木材生産の収益性」に注目して性質を把握する場合、その森が次の分類のうちのどれに当てはまるかを考えます。更に、地域の個別事情等を加えて検討することで、その森の管理方針が見えてきます。



《 森の分類とビジョンの3つの柱、管理方針 》

森の性質を見極め、分類がわかると、ビジョンの3つの柱のうち、どれを期待できるかがわかります。そしてそれぞれの森の管理や利用について、主な方針の選択肢が見えてきます。

大目標： 町内のすべての森が、何らかの方針のもとに管理されている。放置ゼロ！

森の分類	主に期待すること (ビジョンの3つの柱)	目標とする森の姿 (イメージ)	主な管理方針	個別管理メニュー
災害や病虫獣害のリスクを軽減する管理をする森 (防災・減災林)	① 災害が少なく、安心・安全であること	 提供：上田地域振興局林務課	災害等のリスクを軽減する管理 (資源のストック)	<ul style="list-style-type: none"> 行政対応も含めた災害リスクの除去、軽減 災害に強い森林づくり 人工林の保続的管理 松枯れの拡大防止 野生動物の生息域との境界明確化
暮らしを支える森 (水源・環境林)	② 箕輪町の暮らしを彩り、支え、みんなが通いたくなる森であること	 提供：(国司)森林研究所 総務課	混交林への誘導	<ul style="list-style-type: none"> 水源かん養機能を高める管理 人工林を自然へ還す管理 人工林の保続的管理 (資源ストック)
災害や病虫獣害のリスクの軽減を最優先にしながら利用する森 (景観・レク林)	③	 提供：岡田林工務	通いたくなる森づくり	<ul style="list-style-type: none"> 防災に最大限配慮した木材生産の循環の維持または構築 木材以外の恵み(モノ・コト)を得るための管理 町民が親しむための管理 人工林を自然へ還す管理 人工林の保続的管理 (資源ストック)
資源を育み、もたらす森 (木材生産林)	④ 資源を育み、もたらすこと	 提供：岡田林工務	伐って植えて育てるサイクルの維持または構築	<ul style="list-style-type: none"> 人工林を伐って植えて育てる木材生産の循環の維持または構築 人工林の保続的管理 (資源ストック)

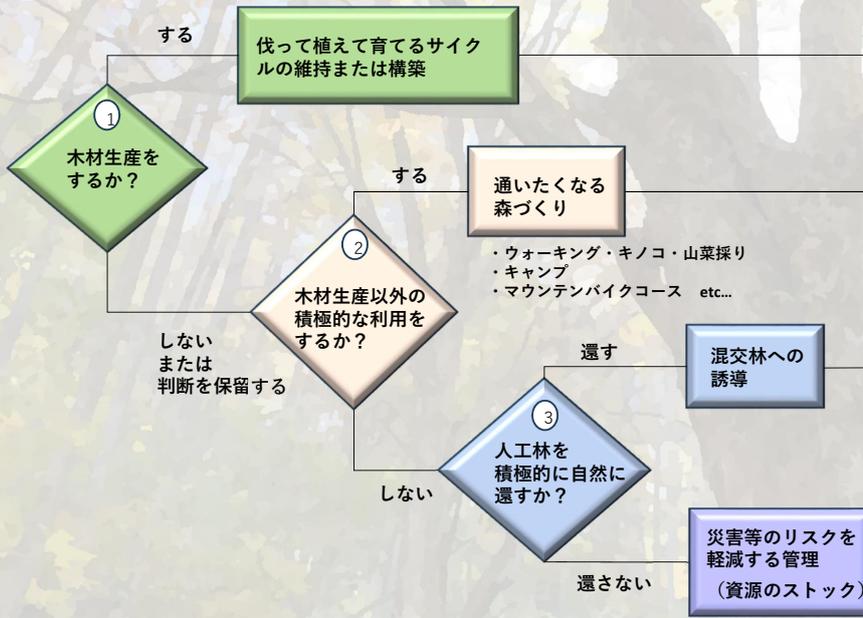
《 森林所有者の意思決定の流れの例と管理メニュー 》

森の性質を見極め、管理方針を決めるときの、考え方の流れを例示します。



利活用を考える森の性質が

- 木材生産林 の場合 ⇒ ①からスタート
- 景観・レク林 の場合 ⇒ ②からスタート
- 水源・環境林 の場合 ⇒ ③からスタート
- 防災・減災林 の場合 ⇒ ③からスタート



《 私たちが望む 森との関わり方 ~関わり方のビジョン~ 》

ビジョンの3つの柱をそれぞれ達成する上で、私たちと森との関わり方についても目標を整理します。

目標	
森林所有者	<ul style="list-style-type: none"> 自分の森の場所、所有境界、状況等を把握している 町が提供する情報等をもとに、森の性質を見極め、管理について自ら考えることができる、もしくは相談先がある ビジョン達成に向けた、最低限の管理を確実にしている (計画や作業の外部委託も含む) 森の性質によっては木材生産以外の利活用も検討し、実行できる
	<ul style="list-style-type: none"> 個人 <ul style="list-style-type: none"> 森林の所有と管理が次世代へと円滑に引き継がれる 近隣の団体育林との間で森林管理の連携ができる 団体 <ul style="list-style-type: none"> 若い世代も含めた森の管理体制があり、その体制が持続できる 近隣の個人有林との間で森林管理の連携ができる 地域住民が森に関わる機会を提供できる
関係事業者	<ul style="list-style-type: none"> 町内の森林をある程度の規模で集約化し、効率的で持続的な木材生産や森林整備を行っている 木材生産に止まらない、広い意味での森林管理 (所有者サポート、計画作成、森林整備、防災上の維持管理等) を一手に、或いは分業して担っており、町内のニーズを満たすことができている
一般町民	<ul style="list-style-type: none"> 町民誰もが、望めば何かしらのかたちで森と関わりあえることができる (そのための仕組みや制度が整っている) 町の森林から生産される木材やその他の恵みが、素材や製品、サービス等として町内で提供されており、入手 (購入) できる
町 (行政)	<ul style="list-style-type: none"> 箕輪町森林整備計画等、他の行政計画と、森林ビジョンとの整合性がとれ、一貫性のある施策が展開されている 森林ビジョンが達成されるよう、アクションプランの実行、達成度の確認、必要な見直し等を継続的に行っている 所有者が森林管理について判断するための情報を提供し、相談に乗ることができる等、所有者サポートの体制が構築されている 所有者の意向があり、必要と判断される場所については、既存の制度等を活用し、町が管理に関与している 病虫害や気象害に対して適切に対処し、その予防にも取り組んでいる 一般町民が森に親しんだり、管理に参加したりできる仕組みや制度を整えている 公共施設整備等に積極的に地域材を使用し、町民が日常的に森林の恵みに触れる機会を創出している

《 森林ビジョン達成のためのアクションプラン 》

ビジョンを達成する上で必要なアクションを列挙し、着手・完了時期と主に取組む人を整理します。

分類	実施項目	着手時期と完了までの期間の目標					主に取組む人			
		すぐに	5年後	10年後	・・・	50年後	町	所有者	事業者	町民
森林ビジョンの 定着と 地域への展開	森林ビジョン推進体制構築	●→					●			
	既存計画等と森林ビジョンとの整合性確保	●→	→				●			
	地区単位の森林の基礎資料作成と公開	●→	→				●			
	地区ごとの管理方針の策定	●→	→	→			●	●	●	●
森林管理の 実行準備	森林の定期点検の体制構築	●→					●	●		●
	町内の災害リスク抽出と整備の優先順位付け	●→	→	→	→	→	●	●		
	松枯れ対策のゾーニングとタイムラインの作成	●→					●			
	野生動物対策としての緩衝帯整備等の検討	●→	→				●	●	●	●
	所有者・所有境界の把握	●→	→	→			●	●		
	所有森林の状況把握	●→	→	→				●		
	広義の森林管理の実行を担保するための検討	●→	→	→			●	●	●	
	広義の森林管理の担い手確保・育成	●→	→	→	→	→	●		●	
	団体有林と個人有林との連携構築	●→	→				●	●		
森林管理の 実行	野生動物対策としての藪の整備等の実施	●→	→	→	→	→	●	●		●
	優先順位に従った災害リスク軽減のための整備	●→	→	→	→	→	●			
	ゾーニングとタイムラインに沿った松枯れ対策	●→	→	→	→	→	●			
	森林の定期点検の実施	●→	→	→	→	→	●	●		
	森林の性質に合った管理の実施	●→	→	→	→	→	●	●	●	
町民の理解醸成	森林ビジョンの周知	●→					●			
	町の森林の魅力の見える化、観光資源化	●→	→				●	●	●	●
	町民の誰もが望めば森林に関われる仕組みや体制づくり	●→	→				●	●		●
	町民が親しめる森林の整備	●→	→	→			●			
	地域産木材の活用	●→	→	→	→	→	●	●	●	●

7

《 私たちの、森への関わりしろ 》

森への関わりしろについて、委員等から出されたアイデアを絵とともに描きます。（作成中）



8